第18回企画展

いいひと いいまち いきいき久喜市

公文書館開館10年

企画展ダイジェスト

開館記念　甘棠院文書展

紙本著色伝貞巌和尚像

第7回企画展　神道無念流宗家戸賀崎家

戸賀崎熊太郎暉芳肖像

第13回企画展　河原井沼の開発

昭和45年ごろの河原井沼

公文書館

第8回企画展　中島撫山の生涯

晩年の中島慶太郎

第14回企画展　明倫館

明倫館全景

久喜市公文書館

平成15年9月9日（火）～11月9日（日）

前期　　9月9日（火）～10月6日（月）
開館記念から第8回企画展まで
後期　10月14日（火）～11月9日（日）
第9回企画展から第17回企画展まで

「企画展ダイジェスト」を開催するにあたって

久喜市公文書館は、「歴史資料として重要な市の公文書その他の記録」の保存と活用を目的に開館して、10年が経ちました。公文書館では、多くの市民の皆様に利用していただくため、企画展を開催しております。

この度、18回目を迎える企画展としまして、これまで開催しました企画展の内容を紹介する「公文書館開館10年　企画展ダイジェスト」を開催することにいたしました。平成５年の「久喜市公文書館開館記念　甘棠院文書展」から平成14年の「第17回企画展　明治22年の町村合併」までに、企画展で展示しました主要な資料を再び紹介します。これまでの企画展を振り返ることで、久喜市の歴史について、再認識していただく機会となれば幸いです。

最後になりますが、今回の展示を開催するにあたりまして、貴重な資料を提供していただきました関係者の方々に心からお礼申し上げます。

平成15年９月

久喜市長　田　中　暄　二

協 力 者（敬称略・順不同）

榎本善之助、内田貞一、嶋田實、武井尚、土屋與之、戸賀崎正道、中島桓、中島元夫、早川正造
甘棠院、光明寺、さいたま文学館、埼玉県立博物館、埼玉県立文書館、仙台市博物館

公 文 書 館 利 用 案 内

業務内容	公文書館では、公文書等の収集、整理、保存のほか、情報公開制度及び個人情報保護制度の統一窓口になっております。また、広報広聴業務、市のホームページ、行政資料コーナー等、市政に関する情報の提供もおこなっています。
開館時間	９：00～17：00
休 館 日	土曜日・日曜日・国民の休日・年末年始 （企画展の開催期間中は、日曜日も観覧できます）
交通案内	JR 宇都宮線・東武伊勢崎線 久喜駅西口下車徒歩 17 分（市役所西側）

久喜市公文書館開館記念　甘棠院文書展

平成５年10月１日（金）～10月31日（日）

久喜市公文書館の開館記念として、市内で唯一国指定重要文化財や県指定等があり、歴史的にも重要な甘棠院の古文書等を紹介しました。

甘棠院文書

甘棠院は、古河公方足利政氏が隠退して住んだ館を寺とした、江戸時代には将軍から寺領100石をあたえられていた臨済宗円覚寺派の由緒ある寺院です。

甘棠院に伝存する文書には、「足利政氏書状」、「武田家高札」、「豊臣秀吉禁制」等の中世文書のほか、徳川歴代将軍による朱印状写、由緒書関係資料等の近世文書があります。

現在、これらの甘棠院文書のほとんどは、埼玉県立博物館に保管されています。

紙本著色伝貞巌和尚像（しほんちょしょくでんていがんおしょうぞう）

甘棠院所蔵・埼玉県立博物館寄託
国指定重要文化財
貞巌和尚は古河公方第２代足利政氏の子息（一説には弟）で、甘棠院を開いた人です。

絹本着色足利政氏像（けんぽんちゃくしょくあしかがまさうじぞう）

甘棠院所蔵・埼玉県立博物館寄託
県指定文化財

足利政氏書状

甘棠院所蔵・埼玉県立博物館寄託

徳川家康朱印状写

埼玉県立博物館所蔵

第１回企画展／資料に見る　久喜市の災害・救恤（きゅうじゅつ）

平成６年10月２日（日）～10月31日（月）

江戸時代から昭和22年までの久喜市の災害と救恤（災害の被災者を救うこと）について、古文書や記録その他の資料により紹介しました。

近・現代の災害としましては、

明治11年（1878）３月に久喜本町を中心に95戸が焼失した大火

明治23年（1890）と明治43年（1910）の大規模な水害

大正12年（1923）９月１日の関東大震災

昭和22年（1947）に襲来したカスリーン台風　等がありました。

明治43年の水害（新町付近）
榎本善之助家提供

明治43年の水害では、埼玉県下の24％が浸水し、久喜市内でも当時の全戸数の94％にあたる2,133戸が水に浸りました。

	久喜町	太田村	清久村	江面村	計
住　家	3	12	2	3	20
非住家	3	10	4	4	21
計	6	22	6	7	41

関東大震災被害状況（埼玉県行政文書 大1420より作成）

大正12年9月1日午前11時58分、マグニチュード7.9の地震が関東地方を襲いました。市内の被害は、建物の全半壊41戸と比較的少ないものでした。

洪水４日目の久喜町のようす
武井友幸家提供

昭和22年９月に襲来したカスリーン台風による市内の被害は、浸水家屋2,815戸、全半壊80戸、死者１名、負傷者22名でした。

第２回企画展／教育記者相澤凞と徳富蘇峰

平成７年２月20日（月）～３月31日（金）

受贈文書である「相澤凞関連歴史的有価値資料」を紹介しました。

相澤（あいざわ） 凞（ひろし） （1880～1956）

大正から昭和にかけて活躍した教育記者。号は、「如楓」、「蓬莱子」、「景楠」、「景楠外史」、「蓬村外史」等を用いています。

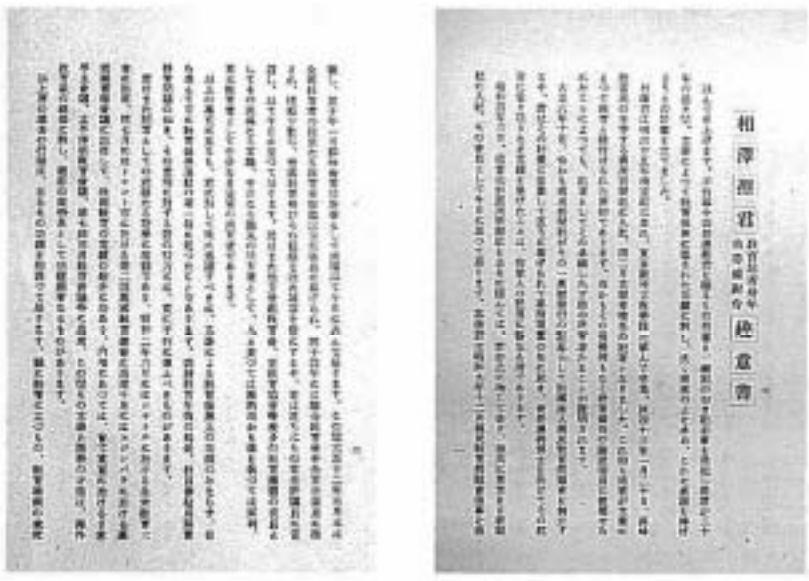
平民新聞社、読売新聞社、国民新聞社、大阪毎日新聞社、東京日々新聞社等で活動しました。

徳富（とくとみ） 蘇峰（そほう） （1863～1957）

本名は「猪一郎」で、「蘇峰」は号です。明治から昭和にかけて活躍したジャーナリスト。戦後は、主に文筆活動に専念したほか、政治家、言論人、歴史家等様々な面もありました。小説家徳富蘆花は実弟です。

全国蘇峰会大会記念
徳富蘇峰絵像

公文書館所蔵・
相澤凞関連歴史的有価値資料



『久敬録』
公文書館所蔵・相澤凞関連歴史的有価値資料

相澤凞が教育記者になったのは、国民新聞社に入社してすぐ文部省にまわされたのがきっかけだと言われています。

昭和15年に友人たちが集まって、凞の教育記者30周年を祝ってくれました。このときの様子は、『久敬録』という小冊子にまとめられています。

第３回企画展／戦後50年資料展 ～戦時下の暮らし～

平成７年７月25日（火）～９月14日（木）

戦後50年という機会に、戦時下の暮らしに関わる様々な資料を紹介しました。

昭和２年（1927）従来の徴兵令を全面改正した兵役法が公布されました。満20歳に達した男子には、徴兵検査がありました。昭和６年満州事変以降、検査で甲種合格者は選抜され現役兵として出征しました。戦局が悪化してくると、補充兵も臨時の召集令状（赤紙）が交付され、さらに現役兵を満期除隊した人も再度臨時招集されました。

軍隊手帳
公文書館所蔵・戦後50年関連歴史的有価値資料

徴兵検査終了之証
公文書館所蔵・戦後50年関連歴史的有価値資料

日中戦争勃発後の昭和13年４月「国家総動員法」が公布され、国民の経済生活は、戦争遂行を至上目的とする戦時経済の中で、広範な統制をうけることになりました。経済統制は、インフレ、物価の騰貴を抑制するための「物価の統制」、最低限の生産物資を確保するための「配給制度」の実施、監視取締りの「経済警察」と強化されました。

昭和14年11月「米穀強制買上制」の実施により、強制的に政府が米を買い入れることになりました。

食料だけでなく、住民生活に必要な物資のほとんどが不足しはじめ、中でも衣料品が真っ先に不足したため、太平洋戦争開戦直後の昭和17年２月に衣料切符制が導入されました。

衣料切符
公文書館所蔵・戦後50年関連歴史的有価値資料

第４回企画展／中島敦とその家系

平成８年２月20日（火）～３月24日（日）

中島敦と久喜との関係、その祖父・父・伯父たちが久喜に残した足跡等について紹介しました。

中島 敦（あつし）（1909～1942）

東京の四谷簞笥町（現新宿区）で、父田人･母チヨの長男として誕生しました。父方の一族がもつ漢学的素養と、敦自身が求めた西洋的知性とをベースにして、優れた小説を著しています。２歳から７歳まで久喜町の祖父母の元で養育されました。

祖父　中島慶太郎（けいたろう）（1829～1911）

本名は「慶太郎」。通称「慶」、字は「伯章」、号は「撫山」と称しています。明治２年に久喜本町（現本町６丁目）に居を構え、明治６年には自宅において生徒を集め教えを説くことを願いでています。これが、「幸魂教舎」のはじまりだと思われます。

父　中島 田人（たびと）（1874～1945）

久喜本町（現本町６丁目）で、父慶太郎･母きくの５男として誕生しました。父慶太郎が亡くなった後、言揚学舎の舎主として県に廃校届を提出しました。

伯父　中島 端蔵（たんぞう）（1859～1930）

本名は「端蔵」。通称は「端（まさし）」、字は「儼之」、号は「斗南」と称しています。父慶太郎･母きくの長男として誕生しました。明治26年明倫館を設立し、明治32年３月まで初代館長の任に就きました。

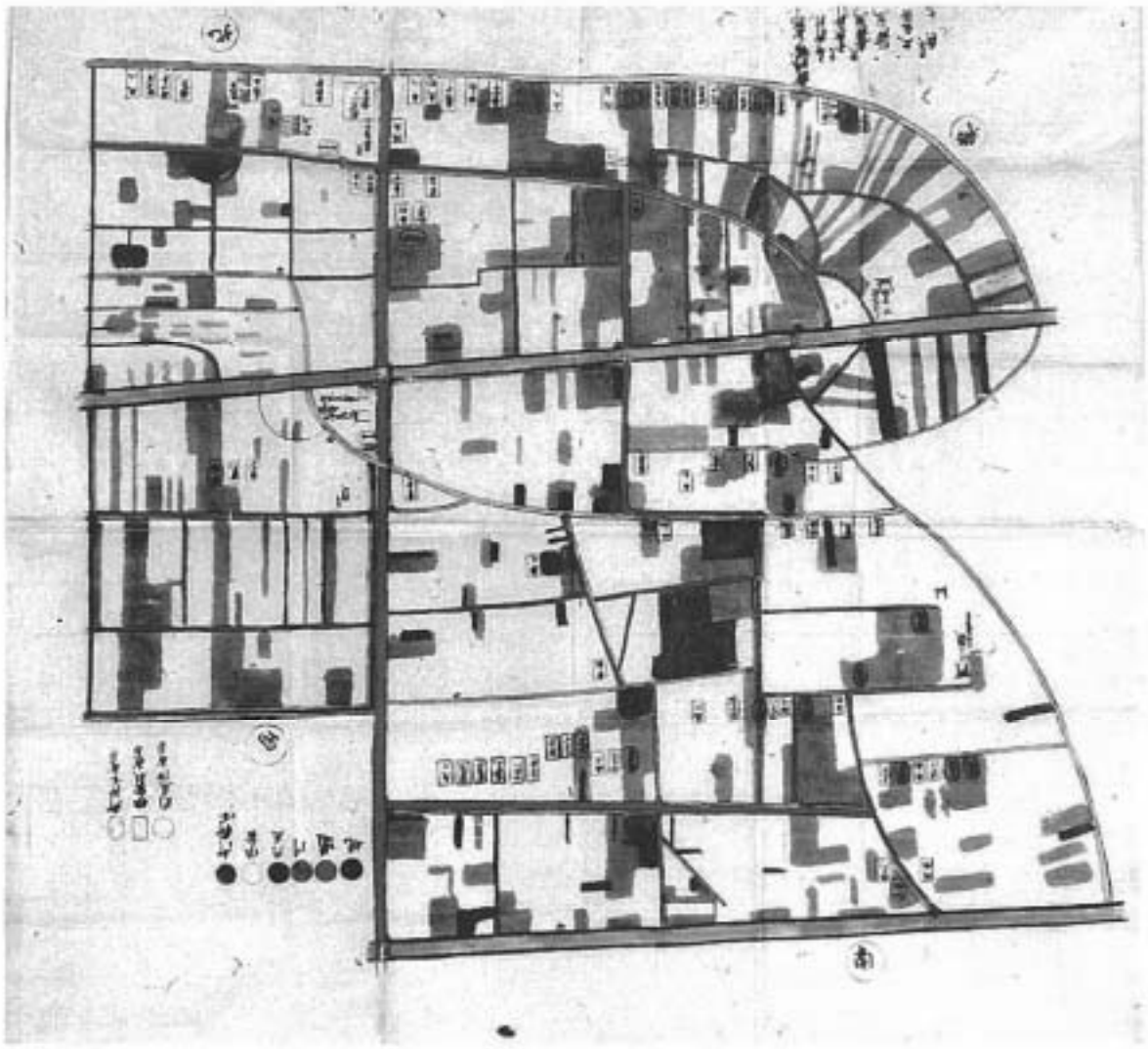
伯父　中島 竦之助（しょうのすけ）（1861～1940）

本名は「竦之助」。通称は「竦（たかし）」、字は「翹之」、号は「玉振」と称しています。父慶太郎・母きくの次男として誕生しました。明治20年に言揚学舎の舎主を端蔵から引継ぎました。また、明倫館でも嘱託教員として設立当初からその任にあたっていました。

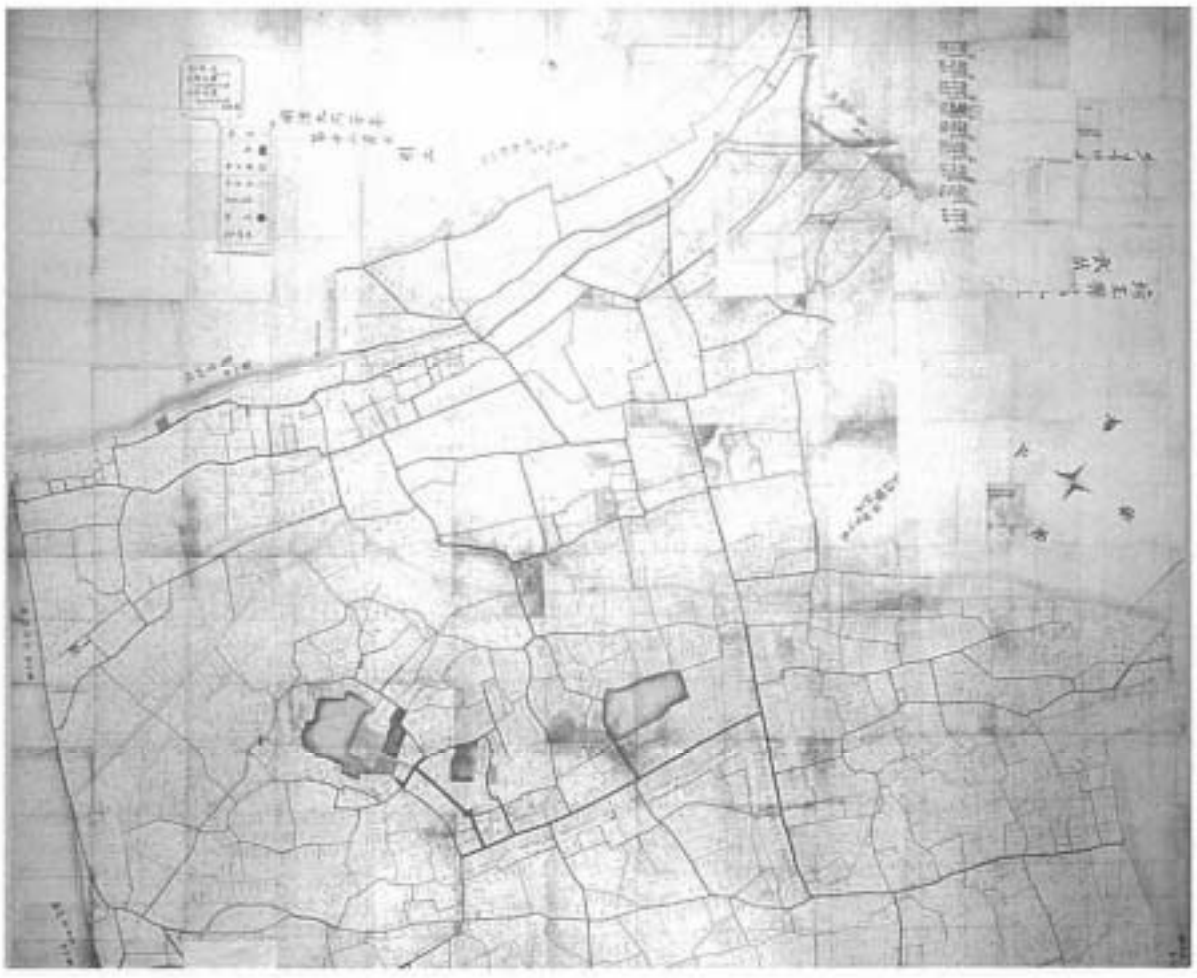
第5回企画展／絵図にみる久喜の歴史

平成8年9月18日(水)～11月1日(金)

近世・近代の絵図から、村絵図を中心として当時の村々のようすなどについて紹介しました。



青柳村知行別絵図
縦78.6×横81.7(cm)
公文書館寄託・
武井友幸家文書



久喜新・久喜本・野久喜・古久喜全図
明治9年（1876）12月
縦4,650×横4,690(cm)
公文書館所蔵

第６回企画展／久喜銀行―消滅までの道程

平成９年２月12日（水）～３月23日（日）

久喜町に最初に誕生した久喜銀行の資料をもとに、設立までの背景や経営の実態、他銀行との関わり、また、明治・大正・昭和初期までの日本の経済情勢などを紹介しました。

久喜銀行は、明治31年（1898）３月１日、資本金10万円をもって設立されました。発起人は、榎本善兵衛（久喜町）、武井友之助（江面村）、宮内翁助（江面村）、瀬田弥藤治（清久村）、小島貞造（須賀村・現宮代町）、日下部泰助（須賀村・現宮代町）の６人で、いずれも久喜町及びその周辺の大地主でした。

行章・社判

株式會社久喜銀行開業廣告

一明治三十一年三月一日開業
一資本金拾萬圓
一營業場所埼玉縣南埼玉郡久喜町大字久喜新丸十三番地
一營業時間午前九時ヨリ午后四時迄

●營業科目

◎定期預リ金　利子割合　一ヶ年以上　年七分　六ヶ月以上　年六分五厘　三ヶ月以上　年六分

此預リ金ハ預ケ主ノ望ニ隨ヒ期限ヲ定メテ預リ之ニ對シテ預リ證書ヲ交付シ置キ滿期ノ節預リ證書ト引換ニ元利金ヲ拂ヒ渡スモノトス

◎當座預リ金　利子割合　日歩金壹錢四厘

此預リ金ハ五圓以上何程ニテモ預リ御入用ノ節ハ何時ニテモ預リ高ノ幾分ニテモ隨意ニ小切手ヲ以テ引出シ得ル方法ヲシバ至極便利ナルヲ上ニ其毎日ノ預リ殘高ニ對シ前記ノ利子ヲ得ルモノトス

◎小口當座預リ金　利子割合　年六分

此預リ金ハ一口ノ預リ入ヲ五圓以上トシ金貳千圓マデヲ預ルモノトス而シテ御入用ノ節ハ何時ニテモ仕拂フモノニシテ總テ通帳ヲ以テ金員ノ受拂ヲナス此預リ金ハ増殖ヲ圖ラル、モノ、便利ニ設ケタルモノナリ利子ハ前記ノ割合ヲ以テ毎年五月十一月ノ兩度ニ計算シ之ヲ元金ニ繰入ルノ方法ナリ

◎貸附金

◎爲換手形及約束手形ノ割引
◎諸品貸證書貸延株券類ヲ擔保ニ金ヲ貸ス
◎代金取立荷爲換及送金

●爲換取組先

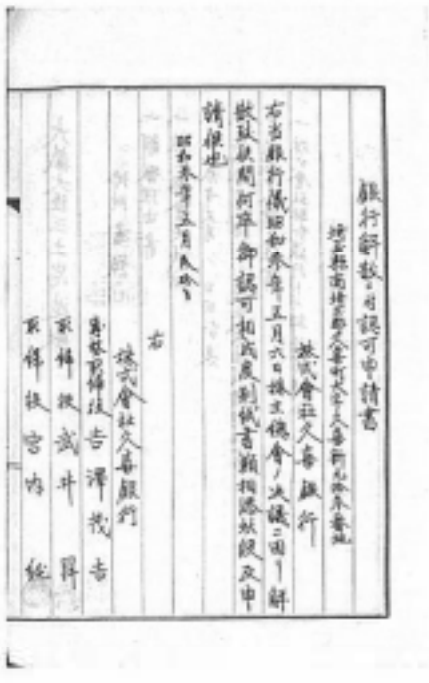
東京中井銀行　通運會社
忍商業銀行　忍貯金銀行羽生支店
柏盤銀行　柏盤銀行幸手支店
越ヶ谷鈴木銀行
熊ヶ谷銀行
加須銀行

此他銀行一般ノ業務ヲ確實叮寧ニ且極メテ御便利ニ取扱ヒ申候間多少ニ拘ハラズ續々御取引被下度奉希望候敬具

株式會社久喜銀行

頭取　榎本善兵衛
專務取締役　宮内翁助
取締役　日下部泰助
同　武井友之助
監査役　小島貞造
同　瀬田彌藤治

久喜銀行開業広告　榎本善之助家所蔵



銀行解散ニ付認可申請書

埼玉縣南埼玉郡久喜町大字久喜新田番地
株式會社久喜銀行

右当銀行儀昭和弐年五月六日開催ノ臨時總會ノ決議ニ因リ解散致候間何卒御認可相成度別紙書類相添此段及申請候也

昭和弐年五月　日

右
株式會社久喜銀行
專務取締役　吉澤我吉
取締役　武井昇
取締役　宮内俊
監査役　小島貞造
同　瀬田彌藤治

久喜銀行解散二付認可申請書
埼玉県行政文書　昭2136－33

設立当初における久喜銀行の経営は概して良好でしたが、明治44年ごろからかげりがみえてきました。昭和２年金融恐慌がおこると、危機的ともいえる状況に陥り、昭和３年５月、昭和銀行と合併することになりました。

第７回企画展／神道無念流宗家　戸　賀　崎　家

平成９年８月25日（月）～10月５日（日）

公文書館に寄託された戸賀崎恵太郎家古文書を紹介するとともに、神道無念流の流儀や、戸賀崎家５代それぞれの功績等について紹介しました。

福井兵右衛門嘉平（1702～1781）が、剣の奥義を悟り、一派を立て神道無念流を称するようになりました。兵右衛門嘉平は、元文５年（1740）38歳の時、四谷に道場を開き弟子をとるようになりました。この弟子の中に有能な後継者、神道無念流発展の礎となった上清久村出身の戸賀崎熊太郎暉芳がいました。

戸賀崎熊太郎暉芳は宝暦９年（1759）、福井兵右衛門嘉平の道場に入門し、同13年には21歳の若さで皆伝の印可を受け、神道無念流を継いで宗家となりました。戸賀崎家は、初代熊太郎暉芳以来５代150年にわたり家伝の業を継ぎ、多くの有名剣客を輩出しました。

戸賀崎熊太郎暉芳肖像
公文書館寄託・戸賀崎恵太郎家文書

初代戸賀崎熊太郎暉芳（1744～1809）号は「知道軒」
２代戸賀崎熊太郎胤芳（1774～1818）号は「有道軒」
３代戸賀崎熊太郎芳栄（1807～1865）号は「喜道軒」
４代戸賀崎熊太郎芳武（1839～1907）号は「尚道軒」
５代戸賀崎熊太郎清常（1865～1921）号は「好道軒」

流祖福井兵右衛門嘉平から初代熊太郎暉芳にあてた免許皆伝書です。

神道無念流免許皆伝書（暉芳）　公文書館寄託・戸賀崎恵太郎家文書

上士下知書　公文書館寄託・戸賀崎恵太郎家文書

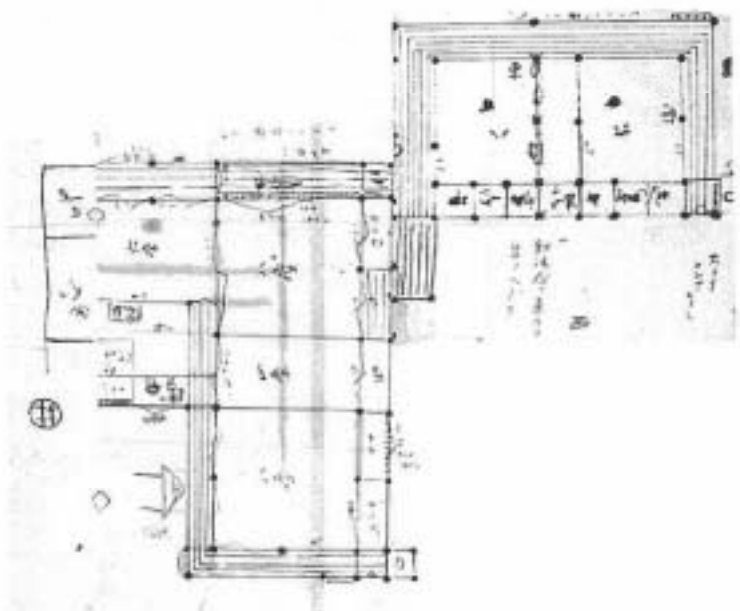
４代戸賀崎熊太郎芳武が水戸藩より上士に列せられ、秩米弐石八斗月俸三人口を給せられました。

第８回企画展　中島撫山（なかじま ぶざん）の生涯

平成10年２月13日（金）～３月22日（日）

中島撫山の旧宅に残された資料や子孫に伝えられてきたもの、そして市内の関係者の家に残されてきたもの等、中島撫山の生涯について紹介しました。

中島撫山は、両国矢ノ倉（現中央区）に「演孔堂」という塾を開講しました。その後、神田お玉ケ池（現千代田区）に移りますが、明治２年（1869）12月に久喜本町（現本町６丁目）に移り住みました。撫山は、明治42年に住まいを、久喜新町（現中央２丁目）に移りました。



久喜新町宅
明治42年９月19日書簡（慶太郎→竦之助）より
公文書館寄託・撫山中島家文書

久喜新町宅（昭和60年頃）

明治６年、撫山は神道教導少講義の立場で、私宅に私塾「幸魂教舎（さきたまきょうしゃ）」を開講しました。その後生徒は増え続け、明治９年には教室を１室増築しました。

明治15年、撫山の長男端蔵が「言揚学舎（ことあげがくしゃ）」を創立し舎主となり、数年後に弟の竦之助に引継ぎました。

私立学校設置ノ件ニ付文部省伺
埼玉県行政文書　明1848－185

中島撫山は、明治44年６月24日に永眠。享年83歳でした。

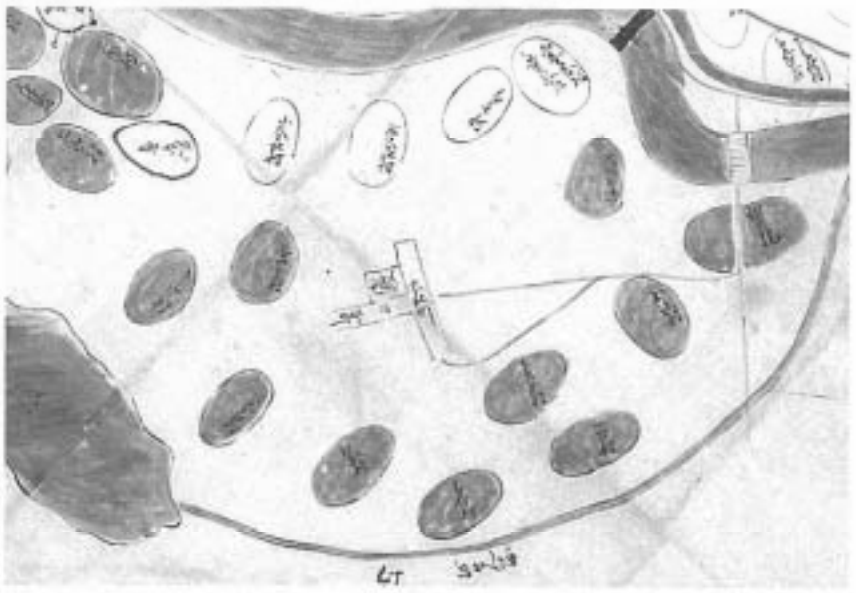
撫山の墓は、市内の光明寺（こうみょうじ）にあります。

第９回企画展　久喜鷹場

平成10年８月18日（火）～９月27日（日）

久喜市域を中心に存在した伊達家拝領の「久喜鷹場」について、古文書・絵図等により紹介しました。

久喜鷹場は、慶長６年（1601）に、伊達政宗が徳川家康から拝領した鷹場のことです。その後、２代藩主忠宗へも引継がれますが、寛文元年（1661）、当時２歳の４代藩主亀千代（後の綱村）の時に、藩主が幼いという理由で返上を余儀なくされました。その存在は、わずか60年という短い期間でした。



久喜御鷹場絵図　久喜付近抜粋
仙台市博物館所蔵

伊達政宗画像
仙台市博物館所蔵

伊達政宗（1567～1636）

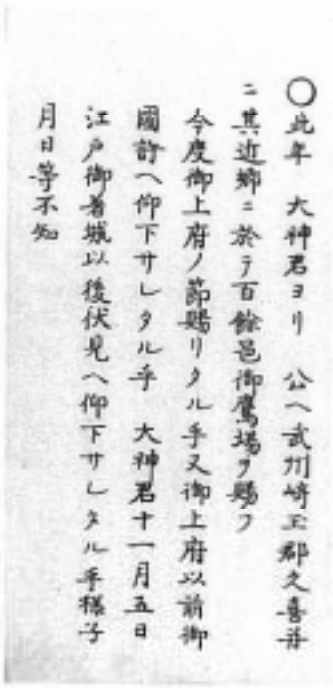
伊達輝宗の長男として、米沢城で生まれる。

名は政宗。初名は梵天丸。通称は藤次郎。号は貞山

初代仙台藩主。陸奥守。

墓は仙台瑞鳳寺。

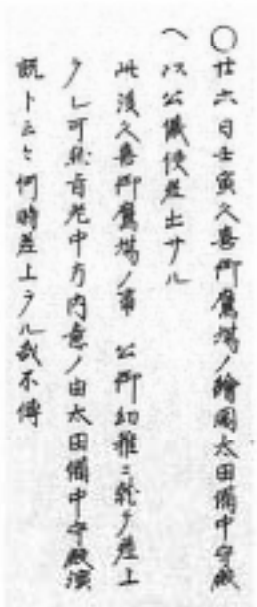
政宗は鷹狩りを好み、度々久喜の地を訪れ、鷹狩りを行なったことが記録に残されています。



○此年　大神君ヨリ　公（武州崎玉郡久喜并ニ其近郷ニ於テ百餘邑御鷹場ヲ賜フ
今度御上府ノ節賜リタル手又御上府以前御
國許（仰下サレタル手　大神君十一月五日
江戸御着城以後伏見（仰下サレタル手様子
月日等不知

『貞山公治家記録』巻廿一
仙台市博物館所蔵

『伊達治家記録』には、政宗が少なくとも26回程度は久喜を訪れ、うち少なくとも十数回は確実に鷹狩りを行なったことが認められます。



○廿六日壬寅久喜鷹場ノ絵図太田備中守藏
（以公儀使差出ナル
此後久喜鷹場ノ事　公御如雅ニ就テ差上
ノレ可然旨老中方内意ノ由太田備中守藏演
説トムト何時差上ラル哉不得

寛文元年に、久喜鷹場を返上するよう幕府老中から内々に話があり、12月１日に正式に久喜鷹場を返上したようです。

『肯山公治家記録』巻一
仙台市博物館所蔵

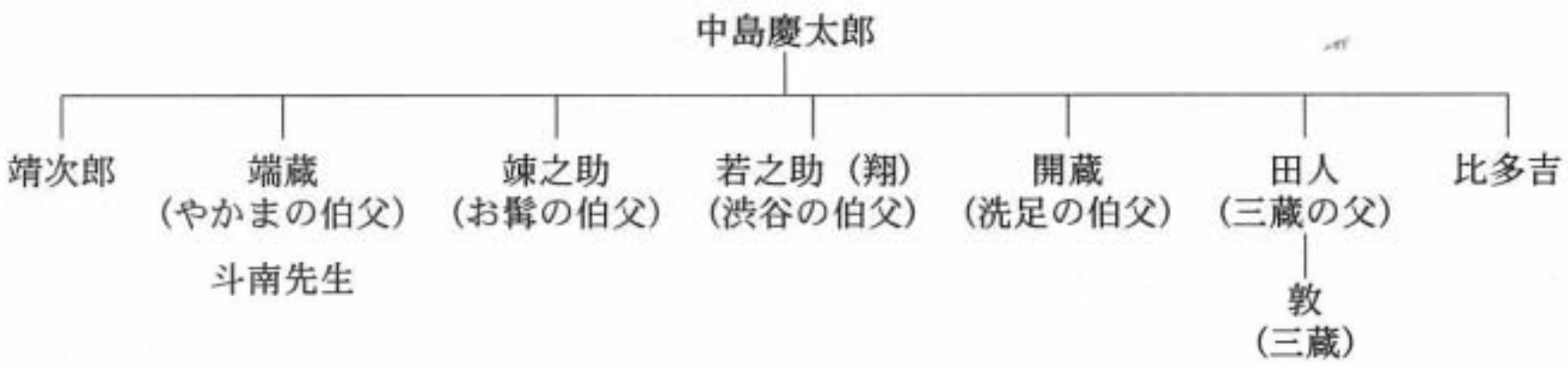
第10回企画展／中島 敦の『斗南先生』・実話

平成11年２月12日（金）～３月24日（水）

中島敦がその小説『斗南先生』で描いた実の伯父中島端蔵に関する資料を、敦の文章を背景に紹介するとともに、端蔵の久喜における活動について紹介しました。

中島敦の小説『斗南先生』には、敦の分身である「三蔵」と「三蔵の父」（＝中島田人）、そして三蔵たちから「やかまの伯父」として煙たがられている「斗南先生」（＝中島端蔵）、斗南先生の弟で斗南先生と好対照の人物として描かれている「お髯の伯父」（＝中島竦之助）、さらに「渋谷の伯父」（＝関　若之助）、「洗足の伯父」（＝山本開蔵）等、実在の関係者が多数登場し、中島敦とその一族を考える上で非常に興味深い作品となっています。

関係者略系図



中島慶太郎の葬儀の際に一族で撮影した写真。中島端蔵（右から３人目）とその弟たちが後列に並んで立っています。

久喜に残る斗南先生の痕跡

言揚学舎　中島端蔵が設立した私立学校

无邪志会　中島端蔵を中心とした政治団体

明 倫 館　中島端蔵と宮内翁助が設立した私立専門学校

私立学校教員変換願　草稿
公文書館寄託・撫山中島家文書

第11回企画展／遷善館（せんぜんかん）

平成11年８月24日（火）～10月３日（日）

江戸時代に設立された郷学「遷善館」について紹介しました。

遷善館は、享和３年（1803）に、久喜郷に村民のための教育機関として建てられた郷学です。郷学は、武士のための藩学と、一般庶民のための寺子屋の中間に位置する官民一体となった教育機関です。郷学は、役所の許可が必要で、学校の敷地や学田の租税の免除や、経費の一部分を藩から支給されるなどの保護もありました。

久喜郷における郷学の設立についての要望は、米津氏が領主の時代からありましたが、当時は実現せず、早川代官の着任によってはじめて達成することができました。

早川代官銅像（岡山県久世駅前）

早川八郎左衛門（1739～1808）

名は正紀（まさとし）、字は子綱、楽水斎と号しました。

天明元年、出羽国尾花沢詰の代官となり、天明７年、美作国久世の代官に転じ、備中国笠岡の代官も兼ねました。

享和元年、武蔵国久喜へ転任となり、同３年に遷善館を設立しました。

扁額「遷善館」　　榎本善之助家所蔵

遷善館規則　榎本善之助家所蔵

「遷善館規則」によると、経書の講釈始は、毎年正月21日で、昼九ツ時（正午）からとなっており、毎月１と６の日が経書の講釈日で、同じく昼九ツ時より始められました。

教諭始は、毎年正月25日で、暮六ツ時（午後６時）からとなっており、毎月の教諭日は、大人に対しては５日と25日、15歳以下の男女に対しては15日でした。

第12回企画展／明治期の小学校と教科書

平成12年２月８日（火）～３月21日（火）

明治時代の久喜市内の小学校を、当時の関連資料や写真で紹介するとともに、当時使用されていた教科書についても紹介しました。

明治５（1872）年、近代日本最初の教育法規である「学制」が発布され、全国に大学８、中学校256、小学校53,760を設置することにしました。埼玉県は、第一大区に属し、管内を三中学区に分けました。久喜市は、第二中学区・第九区に属しました。

市内の小学校の設立状況　（明治９年）

学校名	通学区（字名）	校舎
久喜学校	久喜本町、久喜新町、上早見	光明寺本堂
吉羽学校	吉羽、野久喜、古久喜、栗原、西	妙智寺本堂
江面学校	江面、北青柳	宝光院本堂
早明学校	除堀、原、樋ノ口	不動寺
下早見学校	下早見	大聖院
（分校）	太田袋	普門院
豊明学校	六万部、北中曽根	香最寺本堂
（分校）	所久喜、上清久	大芳寺本堂
下清久学校	下清久	清福寺本堂

教科書制度の変遷

明治初期の教科書

『小学読本　一』
早川正造家所蔵

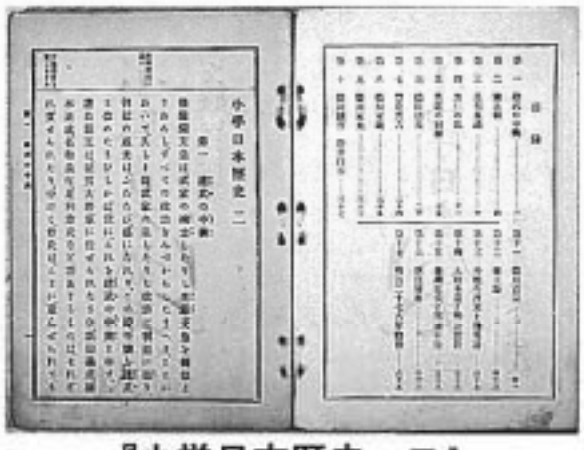
文部省は、児童の発達段階に応じた教科書の編集を師範学校に命じました。

検定期の教科書

『小学日本歴史　前編　第二』
公文書館所蔵・並木忠雄家文書

明治14年頃から、教科書として出版される図書原稿の事前審査が施行されるようになりました。

国定期の教科書



『小学日本歴史　二』
早川正造家所蔵

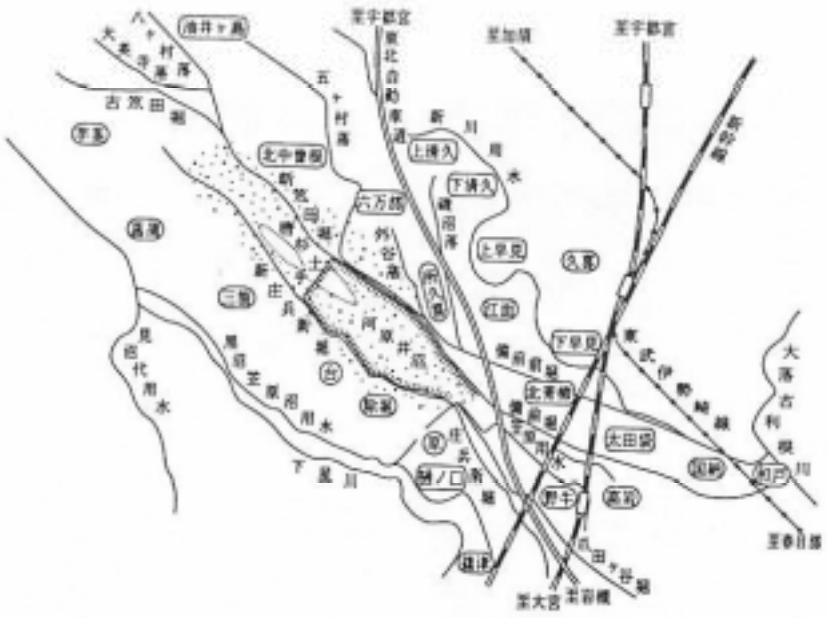
明治37年、国定教科書がほぼ全国的に使用されるようになりました。

第13回企画展　河原井沼の開発

平成12年８月22日（火）～10月３日（火）

江戸時代中期に行なわれた「河原井沼」の新田開発について関係資料等で紹介しました。

河原井沼は、現在の菖蒲町から久喜市南西部、白岡町北部にかけてあった沼です。長さ35町（約3.8km）、横16町（1.7km）もある広大な沼でした。



河原井沼の位置

享保13年（1728）、井沢弥惣兵衛は、広大な沼地の開発を実施しました。開発の方法は、沼の周囲に水除堤を築き悪水の流入を防ぐとともに、悪水を締切り、新流路を開削して、それに落ちるようにしました。そして、排水路を新削し、沼内の水の排除を実施しました。

工事は主として沼廻りの台村、除堀村、原村、下早見村、江面村、所久喜村の村民があたりました。

昭和42年ごろの河原井沼

河原井沼新田請村反別・石高表

村　名	反　別	石　高
台村南組	6町1反	55石0斗
台村北組	7町4反	66石4斗
除堀村	17町1反	146石0斗
原村	6町5反	50石3斗
下早見村	11町3反	97石5斗
江面村本田	6町8反	61石5斗
江面村新田	4町7反	36石7斗
所久喜村	11町2反	101石6斗
武助新田	10町3反	85石9斗
計	81町8反	701石2斗

開発された新田は、81町８反歩余の田と２町１反５畝歩余の畑が造成され、台村をはじめ６ケ村に配分されました。

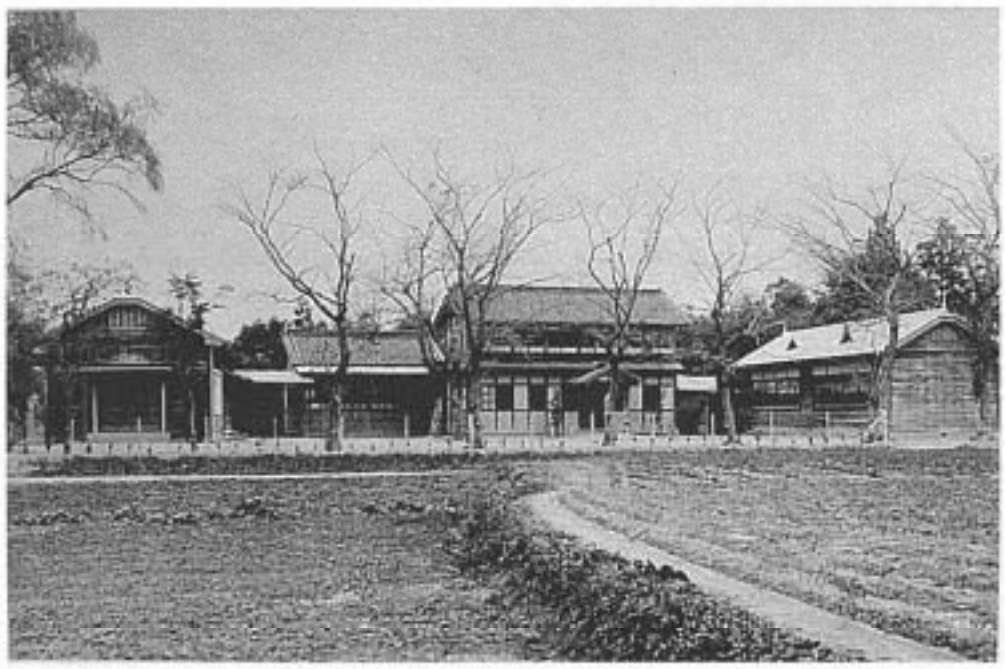
河原井沼の開発によってつくられた新田は、土地柄も非常に不安定なものでした。連年冠水のため被害が出ていたことが記されています。田がつくられても、水害を受けやすい土地でした。

第14回企画展　明倫館（めいりんかん）

平成13年２月14日（火）～３月25日（日）

明治26年（1893）設立され、県東部地区の中等教育に大きく寄与した「明倫館」について紹介しました。

江面村の豪農で中島撫山の教えを受けた宮内翁助（おうすけ）は、中島撫山の子で言揚学舎の舎主をしていた中島端蔵と時勢を論じ、前途ある青年のための中等教育の学校を設置することが必要であるとのことで一致しました。当時の埼玉県には、県内に公立中学校はなく、東京府内の学校や私塾に依存せざるを得ませんでした。翁助は、中島端蔵を館長に迎え、明治26年10月13日私立専門学校明倫館の設置願を県に提出しました。同年12月４日認可され、江面村宝光院を仮教場に充て開校しました。



明倫館全景　島田實家提供

歴代館長

中島端蔵

宮内翁助

私費を投じ明倫館を設立。県会議員、衆議院議員。

宮内　純

翁助の長男。江面村村長、久喜町長。

明倫館の経営は、開校後程なく財政的に運営が困難になりましたが、翁助は明倫館の使命を重んじ、授業料は当初から公立中学校の半額に据置き、その不足はすべて宮内家の私財を投じて補っていました。

明倫館の生徒数は、昭和初期には200名に達しましたが、昭和６年ごろから農村不況が深刻化するとともに、県内の中等教育機関が次第に整備されてきたため、生徒数の激減を招き、ついに経営困難となり、昭和10年３月、その使命を終えました。

第15回企画展／写真で見る久喜市30年のあゆみ

平成13年８月21日（火）～10月４日（木）

市制施行した昭和46年から平成13年までの久喜市の30年のあゆみについて、写真資料を中心にして紹介しました。

市制施行記念式典

昭和46年　記念式典が久喜中学校体育館で行われました。

県道幸手久喜線のオーバーブリッジ

昭和51年　鉄道と立体交差になりました。

再開発前の西口周辺

昭和58年　西口再開発事業の都市計画が決定しました。

久喜総合文化会館

昭和62年　多目的な機能を備えた複合施設としてオープンしました。

「人間尊重・平和都市」宣言

平成元年　久喜総合文化会館において、宣言記念のつどいが開かれました。

大相撲久喜場所

平成７年　大相撲久喜場所が、総合体育館で行われました。

ふれあいセンター久喜

平成10年　在宅高齢者や障害者の社会活動の促進、市民の相互交流、福祉の向上を図る場としてオープンしました。

ISO14001取得

平成11年　環境管理システムの国際標準規格であるISO14001の認証を取得しました。

第16回企画展　明治期の鉄道

平成14年２月５日（火）～３月17日（日）

東北本線や東武伊勢崎線の開通や久喜駅の開設等、明治時代の久喜市の鉄道について紹介しました。

日本鉄道株式会社第二区線（現東北本線）が大宮分岐案にて正式に路線が決定すると、久喜町では、長谷川喜吉、野原吉兵衛、野原新兵衛、荒井伊兵衛、榎本謙次郎、土屋與市、吉田元輔の有志者７名は、明治18年(1885) １月12日に「停車場敷地献納之儀ニ付上申」を埼玉県令吉田清英宛に提出しています。彼らは、停車場敷地の献納を願い出ています。

明治18年７月16日に大宮・宇都宮間が開通し、それと同時に久喜駅も開設されました。

大宮～宇都宮間列車発着時刻（明治18年８月28日）

下り 停車場	発着時刻		上り 停車場	発着時刻	
	時 分	時 分		時 分	時 分
大　宮（発）	9：46	17：06	宇都宮（発）	8：40	16：00
蓮　田（着）	10：08	17：28	石　橋（着）	9：13	16：33
同　（発）	10：09	17：29	同　（発）	9：14	16：34
久　喜（着）	10：32	17：52	小　山（着）	9：49	17：09
同　（発）	10：33	17：53	同　（発）	9：54	17：14
栗　橋（着）	10：55	18：15	古　河（着）	10：30	17：50
‖	渡	船	同　（発）	10：31	17：51
中　田（発）	11：15	18：35	中　田（着）	10：45	18：05
古　河（着）	11：28	18：49	‖	渡	船
同　（発）	11：30	18：50	栗　橋（発）	11：10	18：30
小　山（着）	12：06	19：26	久　喜（着）	11：32	18：52
同　（発）	12：11	19：31	同　（発）	11：33	18：53
石　橋（着）	12：46	20：06	蓮　田（着）	11：56	19：16
同　（発）	12：47	20：07	同（発）	11：57	19：17
宇都宮（着）	13：20	20：40	大　宮（着）	12：19	19：39

『官報』第649号　明治18年８月28日

明治28年、東武鉄道の設立が企てられると、沿線の町村の有志者から、その敷設を要望する意見書が相次いで出されました。

久喜町でも、明治28年７月に、「東武鉄道会社設立ニ付陳情書」が陳情委員によって作成されました。

北千住～久喜間の工事が、明治31年11月10日に着工され、翌32年８月19日に北千住～久喜間40.1キロが開業しました。

時刻／駅名	午前			午後				運賃
	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分	銭
北千住	6：35	9：05	10：56	12：58	3：26	5：53	7：35	0
西新井	6：43	9：11	11：03	1：05	3：34	6：01	7：42	3
竹ノ塚	6：48	9：16	11：07	1：09	3：39	6：06	7：47	5
草　加	6：56	9：27	11：14	1：16	3：47	6：13	7：54	8
新　田	7：02	9：33	11：19	1：21	3：53	6：18	7：59	10
蒲　生	7：08	9：39	11：24	1：26	3：59	6：23	8：04	12
越ヶ谷	7：16	9：46	11：32	1：32	4：08	6：29	8：11	14
武　里	7：25	9：55	11：41	1：39	4：17	6：37	8：18	18
粕　壁	7：33	10：04	11：50	1：46	4：26	6：45	8：25	21
杉　戸	7：43	10：15	12：02	1：55	4：37	6：55	8：34	25
和　戸	7：50	10：22	12：09	2：01	4：44	7：01	8：40	28
久　喜	7：56	10：28	12：15	2：07	4：50	7：03	8：45	30

東武鉄道株式会社『東武鉄道六十五年史』（昭和39年）より

北千住～久喜間時刻表及び運賃（下り）
明治35年４月改正

久喜周辺の幻の鉄道

明治26年から30年代初頭にかけて、数多くの鉄道会社が設立されました。久喜周辺に計画された鉄道会社は、６社ありました。

玉総鉄道株式会社（熊谷～久喜～佐倉）　土浦鉄道株式会社（久喜～土浦）
柳島鉄道株式会社（押上～流山～久喜）　江南鉄道株式会社（熊谷～久喜～八日市場）
武東鉄道株式会社（赤羽～岩槻～久喜）　久喜鉄道株式会社（久喜～岩槻）

第17回企画展／明治22年の町村合併

平成14年10月8日(火)～12月1日(日)

明治22年に行われた町村合併について紹介しました。

明治21年（1888）４月、政府は、「市制・町村制」を公布しました。公布に先立って、同制度の実施に耐えうる基盤を持つ市町村の造成という観点から、大掛かりな町村合併の準備を開始しました。埼玉県では、特別の事情があるものを除き、すべて300戸以上おおむね400戸未満の町村に合併させる方針を定めました。県では、郡長に町村編成案を作らせました。

明治20年の合併案

明治22年の合併

この計画案に盛られた現久喜市域の合併案は、数字合わせの机上案であったことが想像され、到底このまま実施できるものではなかったため、引き続き検討がおこなわれました。

南埼玉郡では、最初に郡下の戸長で、地理民情に明るい10余名を顧問とし、郡役所委員らと相談のうえ新町村の区域を仮定し、これを郡の戸長の会議で修正させました。

久喜町の合併

明治22年４月１日、久喜本町・久喜新町・上早見村の２町１村が合併しました。

太田村の合併

明治22年４月１日、西・吉羽・栗原・青毛・野久喜・古久喜の６村が合併しました。

江面村の合併

明治22年４月１日、江面・除堀・原・樋ノ口・北青柳・下早見・太田袋の７村が合併しました。

清久村の合併

明治22年４月１日、六万部・上清久・北中曽根・所久喜・下清久の５村が合併しました。

発行：平成15年9月　編集：久喜市公文書館　〒346-8501 久喜市下早見85-1　☎0480-23-5010

この図録は再生紙を使用しています。